

事務事業名		椿油産地化推進事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業	
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 21 年度～) ☐ 期間限定複数年度 (計画期間) 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
	施策名	20 産地化をめざした農林業の振興			
	基本事業名	01 農業経営の安定化			
根拠法令				予算科目 会計 款 項 目 事業 01 06 01 03 24	
所属	部課名	農林水産部農林課			
	係名	農政係	電話 27-3111 内線 343		
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・大船渡市並びに陸前高田市で市の花に選定している「椿」という資源を有効に活用するため、椿油の産地化を目指して作業体系の確立及び収益性の検証を行い、椿油栽培地の拡大を図りつつ、新たな産業の創出に資することを目的として、椿油産地化研究会が設立された。 ・椿油産地化研究会では、①椿油の生産に係わる調査・研究に関すること、②椿の植栽面積拡大に関すること、③その他、目的を達成するために必要な事項に関することを事業として行う。 ・本事業は、椿油産地化研究会に負担金を支出する事業である。 ・農林課では、椿油産地化研究会の事務局を担当する。 ・平成21年度は、椿油産地化研究会の設立、椿油栽培モデル圃場の設置を行う。平成22年度以降は圃場の管理及び生育調査を行う。平成27年度以降に収穫量調査を行う。				全体計画 (※期間限定複数年度のみ) 総投入量 (千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計 (A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0	

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段 (主な活動)

前年度実績 (前年度に行った主な活動)

- ・椿油産地化研究会の設立
- ・モデル圃場の設置

今年度計画 (今年度に計画している主な活動)

- ・モデル圃場へ椿苗の植栽
- ・モデル圃場の管理

② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等

- ・モデル圃場の椿

③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか)

- ・椿油の生産量を増やす。

④ 結果 (基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか)

- ・農産物が安定して高く売れる。

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア 椿油栽培モデル圃場の面積	アール
イ	
ウ	

⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ モデル圃場における椿の本数	本
キ	
ク	

⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ モデル圃場における椿の実の収穫量	kg
シ	
ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	年度							
			17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)		
投入量	事業費	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円					1,000	800	
		事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	1,000	800	
	人件費	正規職員従事人数	人					1	1	
		延べ業務時間	時間					100	100	
		人件費計 (B)	千円	0	0	0	0	400	400	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	0	0	1,400	1,200	
⑤活動指標	ア	アール						30	30	
	イ									
	ウ									
⑥対象指標	カ	本						0	200	
	キ									
	ク									
⑦成果指標	サ	kg						0	0	
	シ									
	ス									

事務事業ID	1382	事務事業名	椿油産地化推進事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
平成18年に岩手県商工労働観光部商工企画室から、県の企業連携事業として椿油を扱っている企業から、椿油の新たな産地を探しているとのことで、台風被害の少ない気仙地方に取り組んで欲しい旨の要請があった。既存のヤブツバキは、収穫量が少なく、しかも不安定であることから、安定した生産が可能な栽培体制の確立と、普及させるうえでの収益性の検証が不可欠であることから本事業に取り組むことになった。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
平成21年度新規事業であり、特に変化はない。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
平成22年第1回市議会で、木川田議員から一般質問があり、本事業に期待をする旨の発言があった。観光物産協会長から、椿油を使った新たな産業の創出を目指すべきとの要請がされた。			

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価			
目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由] この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ☒ 妥当である ⇒ [理由] なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ☒ 適切である ⇒ [理由] 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒ [理由] ☐ 向上余地がない ⇒ [理由] 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒ [理由] ☒ 影響有 ⇒ [その内容] 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒ [理由] ☐ 統廃合・連携ができない ⇒ [理由] 他に類似事業がない。	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ☒ 公平・公正である ⇒ [理由] 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映

事務事業ID	1382	事務事業名	椿油産地化推進事業
--------	------	-------	-----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) ・椿油産地化研究会が設立され、本事業が始動した。 ・当初、圃場管理を大船渡東高校に委託する予定であったが、職員体制等によりできなかった。										
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																						
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 接木方式により、成果が早く出るようにする。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	成果	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
成果	低下		×	×																				
	(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 ・接木の台木は、大船渡東高校からある程度提供できるとの回答を得ているが、接木をした後(2月～5月)に養生させるハウスが確保できない。 ・市内に椿の接木技術を持っている者がいないことから、接木講習会を外部講師を招いて開催する必要がある。 ・実際に誰に接木を行わせるのか現時点では明らかになっていない。(大船渡東高校では人的に困難との回答)																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	農林課長
-------	------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☒ 一部記述不足のところがある ☐ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(3) 評価結果の根拠と理由 ・適切な事務執行がなされている。 ・なお、椿苗は平成22年度に購入したが、3月11日の東日本大震災の対応を優先したために、モデル圃場への植栽は23年8月に行った。																																		
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	成果	低下		×	×
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																		
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																		
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																		
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																																		
		コスト																																		
		削減	維持	増加																																
成果	向上																																			
	維持			×																																
成果	低下		×	×																																
	(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可) ☐ 廃止 ☒ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 東日本大震災の復旧・復興事業を優先的に推進するために、平成24年度以降は当分の間、事業を休止する。																																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
